



コロナで企業、大学などへ出向

ANA地上社員 奮闘中

新型コロナウイルスの影響が直撃し、運休や減便といった暗い話題が続く航空業界。中部国際空港で搭乗手続きなどの地上業務を担うANA中部空港（愛知県常滑市）は四月から、中部地方の企業や大学などと連携して社員を出向させる取り組みを本格的に始めた。社員たちは日夜、ピンチをチャンスに変えようと畑違いの業界で奮闘を続けている。（久野賢太郎、写真も）

⑤自らが発案したキャンペーンを紹介する芳村紗世さん（名古屋市中区の名古屋銀行本店でイングリッシュコミュニケーションと打ち合わせをするジョーダン真里菜さん。愛知県日進市の愛知学院大日進キャンパスで



見学してもらおう。契約者が九月三十日までに専用サイトから応募すると、抽選で十一月に十組四十人を空港に招待する。

名古屋銀における芳村さんの業務は本来、接客技術の研修をしたり、事務効率化の助言をしたりする内容だった。ただ、行員らと交流を重ねるうちに、対面が中心だった個人向けの営業活動がコロナ禍で困難にな

空港見学付き商品企画／志望者向け就職相談

中部国際空港会社によると、二〇二〇年度の航空旅客数は過去最高だった一九年度比で84%減の二百一十五千人と、過去最低を記録。特に訪日客需要を旺盛に取り込んでいた国際線はゼロになった時期もあった。

中部空港では、国際線関連のスタッフを中心に人員過剰が続いており、一時帰休を実施した企業もある。

国際線中心に人員過剰

一方で各社は、コロナ禍終息後の航空需要の回復を見据えて一時的な在籍型出向の取り組みを進めており、空港会社傘下の中部空港旅客サービスからは約百人が地元を中心に二十の企業や団体、自治体で活躍中だ。ANA中部空港は人数を公表していないが、名古屋銀行や愛知学院大以外に、愛知県常滑市や三重県庁にも社員が出向している。

の感性を持ちつつ、英語を話せる強みを生かして学生と関わっている。

着任から数カ月。日々の業務のほか、数回のイベントも企画した。気さくな性格から、すっかりラウンジの人気者に。現在は英会話の手ほどきにとどまらず、航空業界を志望する学生の就職相談も受けている。

ジョーダンさんは「毎日が楽しく、やりがいを感じる」とにっこり。「誰かと交流するのが好きで航空業界に入った。コロナ禍はつらいけど、出向がなければ学生との交流はできなかった。もうひとつの天職が見つかった気分」と話した。